

報告

## 御嶽山信仰における墳墓文化の基礎的研究の予備調査

—大阪観光大学共同研究事業

墳墓文化の変容に関する基礎的研究 1990 年代以降を中心に—

A Preparatory Case Study of *Reijinhi* (Deities/Gods Stone Monument) in Mt. Ontake

身玉山宗三郎\*

MITAMAYAMA Sozaburo

This paper is about a preparatory research on *Reijinhi* in Mt. Ontake. *Reijinhi* is a unique form of tomb/cemetery in Japan.

キーワード：御嶽山 (Mt.Ontake)、霊神碑 (*reijinhi*)

## 1. 序論

## (1) 研究の背景・目的と本報告の限界

本稿は、大阪観光大学令和 2(2020)年度共同研究事業の研究成果の一つである。厳密に言えば、その前年度である平成 31(令和元)年度大阪観光大学研究ブランディング事業における研究の継続に相当する。

本共同研究の目的は、「急激な変容を見せる現代の日本・韓国・中国の「墳墓文化」に注目し、「死者」をめぐる比較研究の枠組み構築を目的とする」というものであった。

本共同研究の内容は、「「墳墓文化」に見られる現代の各国社会の急速な変容を、(1) 歴史的文脈の上に跡づけ、(2) 現代社会におけるその意味合いを宗教学的かつ政治学的に考察する」というものであり、その計画・方法としては、「まず各国の墳墓をめぐる現状を抽出し、歴史的文脈の上に位置づけ、「死者とナショナリズム」という観点からの含意を抽出し、墳墓施設の対象を絞り込んだ上でフィールドワークを実施する」というものであった。

実際に共同研究者の金教授は「死者とナショナリズム」という観点からいくつかの研究成果を残された(金(2021)、金(2024))。

しかし、改めて考えてみると本件研究目的及び内容は筆者の手にあまるものであり、かつ、取り組みを始めた直後にコロナ禍に遭遇することとなり、いらずらに時間だけが経過することとなってしまった。

そこで本稿は現時点での限定的な文献調査と現地調査の結果及びその考察のみを目的とし、中間報告として提示するにとどまる。

## (2) 先行研究の概観

本稿で考察するのは御嶽山信仰における霊神碑という種類の墳墓である。筆者は御嶽山の霊神碑に数十年にわたり接している。御嶽山信仰は日本特有の山岳信仰の文化を色濃く残しており、また神仏習合ないし修験道の教義を含む場合があるため、明治期に禁止され、戦後その禁止が解かれた日本の宗教形態と関わっており、ナショナリズムと無関係というわけでもない。もっとも、検討した先行研究は日本山岳修験学会の論文を中心とするものであり、墳墓文化に見られる日本社会全体の急速な変容とは直接関わらないともいえそうである。

## 2. 現地調査

## (1) 概要

2019 年 9 月 7 日頃に御嶽山黒沢口へ訪問し、御嶽山霊神碑の撮影と聞き取り調査を行った。



写真-1 御嶽山八合目あたりの霊神碑 (2019 年 9 月 7 日撮影) (出典：筆者撮影)



写真-2 御嶽山黒沢登山口付近の霊神碑 (2019 年 9 月 7 日撮影) (出典：筆者撮影)



写真-3 御嶽山黒沢登山口の霊神碑。手前は文字のみ霊神碑、その奥に人型の霊神碑、最奥の碑には神名（不動明王、御嶽大神）が記されている。（2019 年 9 月 7 日撮影）（出典：筆者撮影）



写真-4 御嶽山の霊神碑石材置き場（2019 年 9 月 7 日撮影）（出典：筆者撮影）



写真・5 御嶽黒光真石（おんたけまっこうまいし）（御嶽山の霊神碑の素材）（2019年9月7日撮影）  
（出典：筆者撮影）

## (2) 田中石材店における聞き取り

日時：2019年9月7日頃

場所：田中石材店

対象者：田中充昭（みつあき）（一級技能士）52歳 跡継ぎ。

田中一繁（かずしげ）81歳 先代。

内容：

- 1、霊神碑の総数：約2万基。
- 2、関係寺：大泉寺
- 3、石：黒光真石。田中石材さんはストックしている。ダイヤモンド加工する。  
御影石のものもある。  
完成品が中国から来る場合もある。
- 4、形：川原石を2つに割るとこうなる。  
重たいから切る。運搬の理由。舟型。形に宗教的な意味はないという説。仏像の光背に似せたという説。  
四角は難しい。  
二人で担ぐ。  
4人～9人で担ぐこともある。  
それ以上は引っ張る。  
意図せず割れることもある。
- 5、骨と土葬：骨はない。土葬でもない。
- 6、礼拝対象：礼拝対象である。生前に建てる人もいる。亡くなった人を納めたいということではなく、遺言で建ててくれと頼まれた、ということで建てられる。覚明さんのころの熱意がなくなった。

- 7、大泉寺に詳しい情報があるかもしれない。石工の守屋貞治の像がある。高遠の人。
- 8、リアルな石像はころげやすい。
- 9、昔は銅像もあった。供出したから少ない。
- 10、注文から完成まで2ヶ月から3ヶ月。
- 11、台は木曾福島。
- 12、価格は30万円から数百万円。

### (3) 田中旅館における聞き取り

日時：2019年9月7日頃

場所：木曾御嶽山黒沢口四合目松尾滝大滝滝田中旅館

対象者：田中大雄（54歳）

内容：

- 1、お墓の正式名称：霊神碑。魂が神様になる。お墓参り。礼拝の対象。
- 2、なぜあの形なのか。四角でも五輪の塔でもない。：自然石。自然。
- 3、どこでも建てていいのか。誰の許可があるか。縄張りはどう形成されるのか。：山にもあった。地権者。
- 4、霊神の名付け方。：つけない。
- 5、石材などどこから。：古いものは地元。今は輸入。
- 6、骨はあるのか。：ない。
- 7、土葬なのか。：ない。
- 8、リアルなもの。：講社による。

### 3. 今後の課題

なぜ信者は通常の墓の他に霊神碑を持つのか。そしてそのことはナショナリズムと関わるのか。  
また、御嶽山登拝はなぜ流行り、なぜ廃れたのか。そのことはナショナリズムと関わるのか。  
これらが今後の考察課題である。

#### 【謝辞】

田中旅館の田中大雄氏、田中石材店の田中充昭氏と一繁氏には聞き取り調査に応じていただいたにも関わらず、本稿脱稿まで時間を要してしまった。ここに感謝の意を表し、本稿を上掲する。

#### 【引用・参考文献】

- 小林奈央子（2008）「霊神碑は語る 東海地方における霊神碑の現況と霊神信仰」『山岳修験 42巻』日本山岳修験学会
- 小林奈央子（令和4）『高針心願講 立講百周年記念誌』高針心願講
- 岡本道和（2013）『木曾御嶽山にみるツーリズムを支える仕組み スピリチュアルツーリズムを探る』大阪市立大学大学院
- ハ・サンボク著 金世徳 訳（2024）『死者の政治学』所収 第1部 「国民国家と再現の政治：国立墓地の発明」『大阪観光大学研究論集 第24号』大阪観光大学
- ハ・サンボク著 金世徳 訳（2023）『死者の政治学』所収 「プロローグ 「国立墓地と死者の政治」」『大阪観光大学研究論集 第23号』大阪観光大学
- HASANGBOK 著 金世徳 訳（2024）「死者の政治学：国立顕忠院、「反響軍事主義」の空間」『大阪観光大学研究論集 第22号』大阪観光大学
- 金世徳（2024）「ダークツーリズムと民主化の試論 五・一八光州民主化運動を事例に」『楽しむ力とツーリズム 観光を見る眼 第3号』晃洋書房
- 金世徳（2021）「墳墓文化の変容に関する基礎的研究 1990年代以後を中心に」『大阪観光大学共同研究成果発表会資料』大阪観光大学
- 深瀬央道（平成24）『木曾御嶽山案内記』和邇御嶽山御嶽教滋賀大教会
- 深瀬央道（平成24）『御嶽山黒沢口信仰資料拝見記』和邇御嶽山御嶽教滋賀大教会
- 銭谷武平（1991）『役行者ものがたり』人文書院
- 木曾おんたけ観光局（2018）『御嶽信仰のおはなし』木曾おんたけ観光局
- 三岳村（昭和62）『三岳村村誌』三岳村

菅原壽清 (2008) 「御座にみる木曾御嶽信仰の現在」『山岳修験 4 2 巻』日本山岳修験学会

橘弘文(2023)「お塚を見直す 稲荷山の民間信仰」『大阪観光大学研究論集 第 2 3 号』大阪観光大学

木曾町 (2024) 木造韋駄尊天立像 <https://www.town-kiso.com/Manabu/rekishi/bunkazai/m100003/> (2024.11.12).

木曾町 (2024) 石造六地藏幢

<https://www.town-kiso.com/Manabu/rekishi/bunkazai/m100004/> (2024.11.12.)

三岳黒沢の菩提寺・神護山大泉寺について

<https://mitakemura.tmj-chihou-support.com/daisenji/> (2024.11.12.)

一般社団法人長野伊那谷観光局 (2024) 「稀代の名工」守屋貞治

<https://www.inadanikankou.jp/special/page/id=1318> (2024.11.12.).

日本山岳修験学会

<http://www.sangakushugen.jp> (2024.11.12.)

日本石材工業新聞(2024)「御嶽黒光真石 (長野)」

<https://www.ishimaga.com/ontakekokkomaishi> (2024.11.29.)